

2016年度 日本財団在宅看護センター 起業家育成事業 第3期生 受講者募集要項

看護師が
社会を変える!

目次

事業概要	日本財団在宅看護センターとは	1
	第1期生・第2期生について	2
募集要項	受講者募集要項	3
	支援制度	4
研修概要	スケジュールおよびカリキュラム	5
	アクセスマップ／お問い合わせ	7

日本財団在宅看護センターとは

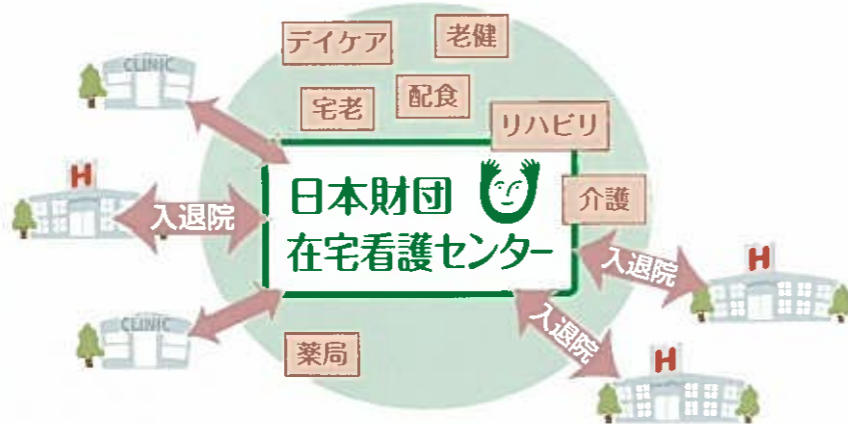
はじめに

本事業では、独自機能として個々の人間の生活力ケアが主務のひとつである看護師に、財務・業務管理・市場調査・企業運営、介護・福祉・リハビリテーションなど保健関連の専門知識の修練を含む管理的研修を行います。

本事業の目的は、医療行為における医師との協力と共に、適切規模の人口集団ごとに「日本財団在宅看護センター」を配置し、医療施設から退院した患者のフォローに加え、徐々に生活力・生存力が低下する高齢者を対象とした地域包括的なケアの担い手を育成し、かつその担い手をネットワーク化することです。

特徴

- 看護師を中心に介護士、PT/OT(非常勤含む)等10~15名で構成
- 適切な地域規模/人口規模を24時間カバー
- 他の保健医療施設、特に在宅施設と連携
- 地域包括的なケアのマネジメント機能を持ち、看護師は多職種連携のコーディネーター(Inter-Professional Coordinator)役を担う



本事業では「日本財団在宅看護センター」を起業・運営する人材を育成します。

本センターは、地域の公・私立医療施設、診療所、開業医、その他介護・老健施設などと連携するほか、薬剤、給食、リハビリテーション施設とも連携します。また、地域外関係施設とも連携する努力を行います。

加えて、地域住民の理解と協力の下に、独居住民や退院直後または容態不安定期の人々、さらに看取りを必要とする場合には、在宅ホスピス機能も備えた柔軟な体制を目指します。

在宅看護の形態は、都市・農村(農繁期)・山村(作業季節性)・漁村(労働時間性)など地域で異なります。本センターは地域に根ざす各センターが、各々が持つ情報や人材を共有できるネットワークを目指します。

本事業のねらい

看護師を中心とした、地域包括的な在宅医療を担う事業所を運営するための、以下の4つの力を養成します。

- ① 安定して事業を継続させる経営力
- ② 現場での情報を把握し迅速に対応する判断力
- ③ 住民と他の保健福祉関係者をつなぐコミュニケーション力
- ④ 社会資源を活用し効果的な連携をするためのコーディネーション力

対談「看護師が社会を変える」

笹川 陽平(日本財団 会長) × 喜多 悦子(笹川記念保健協力財団 理事長)
当財団ホームページに掲載しています。

<http://www.smhf.or.jp/hospice/zaitaku/>



第1期生・第2期生について

2014年6月にスタートした本事業は、第1期生17名全員が修了し、現在それぞれの開業地または開業予定地に戻りました。2015年10月現在、10名が「日本財団在宅看護センター」を開所し、さらに2016年内に2名の開所の予定が決まっています。

2015年度は第2期生として9名の受講者を迎えました。第一線で活躍する多彩な講師陣による講義、特色を持った訪問看護事業所での実習、笹川記念保健協力財団・日本財団によるバックアップのもと、「日本財団在宅看護センター」の開所に向けて、日々切磋琢磨しています。

修了後、すぐに開所して実績を積んだ第1期生の事業所では、第2期生の実習を引き受けて頂きました。1年前に同じように勉強していた先輩が、今は既に代表として事業を運営していることは、第2期生にとって、とても刺激的であり、大きな目標となっています。

日本財団在宅看護センター 開業状況(予定含む) (2015年10月現在)



第1期修了生 大槻 恭子さん (一社)ソーシャルデザインリガレッセ日本財団在宅看護センター豊岡代表

看護師として様々な社会問題を目前に「看護の視点でもっと何かできるはず」と葛藤する日々を過ごしていました。そんな折、本事業の「看護師が社会を変える」の一言に胸が高鳴りました。多くの素晴らしい講師陣からの学びを糧に受講修了7カ月目となる8月に開業しました。

チーム一丸となって今日もフィールドに飛び出します。本人だけでなく家族、そして地域へと私達の看護が大きな力となり社会問題解決の糸口となるよう「私達にしかできない看護がある」と目的意識を高く持ち、本事業で学んだ看護をより多くの方々に知って頂きたいと日々奮闘しております。



第2期受講者 黒沢 薫子さん 開業予定地:茨城県



私は長く地元の総合病院に勤務し多くの経験をしました。最期は自宅に帰りたいと切望する患者さんも多く、わずか2年間でしたがその方々のための訪問看護室を1人で立ち上げました。在宅で最期まで過ごせるよう支援できた時、患者さんやご家族から看護師としてこの上ない喜びを頂きました。

そして、数ある起業家育成の中からこの事業を選んだのは、世界的な広い視野で公益活動を行っている財団だからです。病院から地域へと私も視野を広げること、起業家として何を目指していくのか、という意識改革をこの事業で学んでいます。世界にも伝えられる在宅看護の素晴らしさを、これから実現していきたいと思っております。